



# 学校だより

12月号

横浜市立東本郷小学校  
令和4年12月1日

ひとにやさしくありがとうの心で <sup>こころ</sup>がんばる <sup>さいご</sup>がんばる最後まで <sup>ほんま</sup>本気で <sup>とく</sup>取り組む <sup>ひがほん</sup>ひがほんの子

## まちの人の思いに触れて

学校長 <sup>どうごし</sup>堂腰 <sup>やすひろ</sup>康博

「竹とんぼ、こんなに飛ぶんだよ。見てて！」手のひらで勢いよく回すコツをつかんだ3年生が、どこまで高く飛ばせるか、どれくらい長く飛んでいられるかを披露してくれます。その隣では、スーパーボールすくい釣果を「YouTubeで金魚すくい名人の動画見といたから30個はゲットできた。」と誇らしげに話してくれます。どの子も学校で見る表情よりテンションが高めです。

本校を会場にして「ひがほん郷(ふるさと)まつり」が3年ぶりに行われました。このイベントは「みどりのわ・ささえ愛プラン(第4期緑区地域福祉保健計画)」にある東本郷地区の計画を推進する取組で、地域の人たちがつながり、支え合い、一緒に楽しみを共有できるまちを実現するために開催されました。実行委員会では調整や協議を繰り返し、感染症への対応に神経を遣いながらも、「人と人をつなぐ」という開催の意義や方向性を一致させて、0歳から100歳までの方が集えるまつりを目指そうと、並々ならぬ決意のもとで準備を進めてこられました。各自治会・関係施設等で用意したコーナー、Bingo大会、東鴨居中学校の吹奏楽部や横浜国立大学管弦楽団の演奏もあり、会場は大賑わいとなりました。子どもたちや保護者のみなさま、卒業生や教職員も訪れ、子どもも大人も笑顔になる素敵な時間になりました。大きな仕事を終え、片付けをする実行委員のみなさまは、「苦労は多かったけどできて良かった。来年につながる大きな一歩になった。」と口をそろえて仰っていました。

週明けの朝会で、このおまつりがなぜ行われたのか、当たり前のように思える素敵な出来事が、実は当たり前ではないことに気づいてほしくて、まちの人の思いを子どもたちに話しました。子どもたちは、いずれこの地域を担う人材になりますが、まちの人たちとともに楽しんだ時間や場所が原風景となります。まちを愛し、まちから愛される子どもたちであってほしいといつも思っています。本校の学校教育目標の中には、「地域社会のために自らできることを考え、実践しようとする子」や「様々な人や団体とのコミュニケーションを通じて、お互いを理解し合える子」が掲げられています。また、本校では、学校を支援してくださるみなさまがとても活発で協力的で、生活科や総合的な学習の時間等、授業を通してまちの人から学ぶ楽しさや喜びを味わえる環境に恵まれています。だからこそ、子どもたちが周りの人のために、そして将来の自分のために、できることはないかを考え、家族や仲間以外の人とコミュニケーションをとったり、年齢や立場の違う人たちと一緒に活動したりできる場や活躍できる機会をこうした地域行事の中に創っていけないだろうか、そんなことを考えるのも実に楽しい、わたしの「ひがほん郷(ふるさと)まつり」デビューとなりました。

